

【全体概要】 イチゴ栽培においてハダニ類の食害は株の生産能力を低下させ、収穫量を不安定化させる重要な害虫であるが、薬剤抵抗性の発達により防除は困難になってきており、薬害抵抗性の影響を受けない新たな防除技術が求められている。そこで、薬剤抵抗性の影響を受けず、発達しない新たな防除技術として、イチゴ苗への炭酸ガス高濃度施用の効果を実証し、天敵等と組み合わせたIPM(総合的病害虫管理)手法を確立し、地域への普及に取り組む。

新品種・新技術等の概要

定植前のイチゴ苗を炭酸ガスを高濃度(60%)に高めた密閉空間に24時間燻蒸することで、ハダニ類を死滅させる。

ハダニ類の増殖に合わせた天敵資材の導入により、ハダニ類の発生を長期間抑え、安定生産技術の一つとする。



図 炭酸ガス処理

生産安定化
化学合成農薬削減

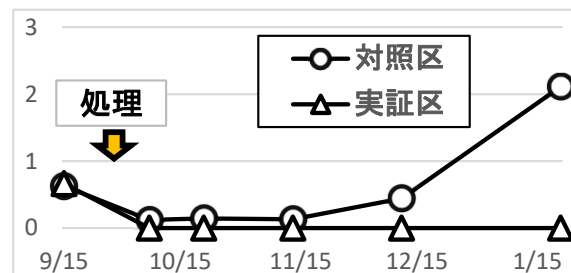


図 1葉あたりのハダニ発生数

主な取組内容

県内津地域において実証圃を設置し、「章姫」を対象に高濃度炭酸ガス施用によるハダニ類の防除効果を慣行防除と比較検討・実証する。

新技術導入と利用にかかるコストを試算し、慣行防除と比較した経営効果分析を実施する。

実証調査の結果をとりまとめ、新技術導入にかかる手引書(マニュアル)を作成する。

実施体制図

【生産者】
・実証圃栽培管理
・管理記帳

【県行政担当課】
・検討会への参画
・県農業振興への反映

指導

連携

連携

【JA津安芸・JA三重中央】
・販売にかかる調整
・実証圃管理補助

【津地域農業改良普及センター】
・事業計画の作成・運営
・検討会の開催
・関係機関との調整

連携

連携、情報提供

情報交換

連携

【実需者】
県内流通・販売事業者
・実証生産されたイチゴの
評価判定

【中央農業改良普及センター、県農業研究所】
・検討会への参画
・現地実証にかかる助言

実績と今後の対応

- ① 高濃度炭酸ガス処理本圃面積 12a(R1)→92.5a(R3)
- ② 「人と自然にやさしいみえの安心食材表示制度」取得農家 2戸31a(R1)→3戸48a(R3)
- ③ 高濃度炭酸ガス施用によるハダニ類発生抑制効果は処理後2か月程度確認され、天敵活用により抑制効果を延長できた。処理コストは1株16円で慣行より高くなるが、防除が確実なことから農家の評価は高い。共同利用では装置場所の確保や処理日程調整などが必要である。今後の普及活動に活用する。